

エリアウェーブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email: hirayama-atxj@pref.yamanashi.lg.jp

「耳と目と心できく」

「思いやる」

それはただ聞くことでもあるのです。
 言葉だけではなく、
 言葉の裏にほのかにみえる
 心に思いに耳を傾けることです。
 わずかなささやきは、こちらが声を発しているかぎり
 聞こえてきません。

聞いてください

ラヴィング・イーナ・マザー

「私の話を聞いてください」と頼むと、
 あなたは助言を始めます。
 私はそんなことは望んではいないのです。
 「私の話を聞いてください」と頼むと、
 あなたはその理由について話し始めます。
 申し訳ないと思いつつ、
 私は不愉快になってしまいます。
 「私の話を聞いてください」と頼むと、
 あなたは何とか私の悩みを
 解決しなければという気になります。
 おかしなことに、それは私の気持ちに反するのです。
 祈ることに慰めを見出す人がいるのは、
 そのためでしょうか？
 神は無言だからです。
 助言したり、調整しようとしません。

神は聞くだけで、悩みの解決は自分に任せてくれます。

だからあなたも、
 どうか黙って私の話を聞いてください。
 話したかったら、私が話し終えるまで
 少しだけ待っていてください。
 そうすれば、私は必ずあなたの話に耳を傾けます。

「いい子」じゃなくても大丈夫(PHP文庫)

金盛 浦子著より

フリースクールに通うK君の話

自分の話を聞いてもらえるのはうれしい。
 だけど、話を聞くのが下手なスタッフもいる
 ね。話を聞いてもらっていて悪いんだけど。
 こっちが別に答えを出してもらおうと思って
 話しているわけでもないのに、いちいち答え
 ようとする。一生懸命聞いてくれる、って
 ことなんだろうけど、こっちは別にそういう
 こと期待している訳じゃないからさ。そうい
 う風にされて、「そうかなあ」と思うこともあ
 るけど、何ていうか、いちいち答えられると
 話した気にならないと言うか、すっきりしな
 いっていうのかな。 (一部抜粋)

子どもたちの思いを受け止めようとするあまりに、か
 えって望ましくない行動をとってしまうことがあります。
 そばにいて、ただ寄りそって欲しい、話を聞いてもら
 うだけで安心できるのに、人生の先輩として、「こうした
 方がいいよ」など、一言言わずにはいられないのはど
 うしてなのでしょう。

「聴く」ことは、私たちが思っている以上に難しいこと
 です。聞き手自身も焦らず、余裕をもって、漢字のよう
 に、相手の言いたいことを耳や目、心から一生懸命に
 きく姿勢をもちたいもので
 す。

自分の視点で物事を見て
 くれる。誠実に自分と向き合
 ってくれる。自分の変化を信
 じてくれる。そんな人が自分
 そばにいてくれたら、子どもたちは悩みながらも自
 ずと答えを見つけていけると思います。私たち大人は、
 それを見守る存在でありたいです。



出前講座

～入学前に家庭で出来る準備～

誰でも新しい環境に足を踏み出す時は、期待や不安があるものです。「学校って、お昼寝しないの?」「迷子になったら?」という子どもの声に「うちの子は大丈夫かしら?」など、考えると心配の種はつきません。特に、第一子の場合は、親の心配度が高いそうです。

峡東地域の20の小学校において、NPO法人すてっぷ・あっぷるでは新入学児の保護者を対象に「学校に上がる前に家庭で出来る準備」というテーマで、家庭教育出前講座を行いました。

実際の事例を交え、安全・生活習慣と学習の準備、他の子どもたちとの関わりと学校との協力、子育て・・・など、ポイントを押さえ話してくれました。

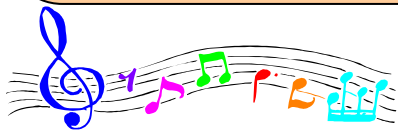


(入学説明会での様子)

子どもと通学路を歩いたり、パーソナル・スペース（相手との安全な距離感）を教えたり、親子で一緒に準備をし、4月の入学式を迎えてほしいと思いました。

保護者アンケートより

- ・ そうだなあ・・・と思う事、反省させられる事が、たくさんあり、自分の子育てを振り返るよい機会となった。
- ・ 入学に関して不安があったがお話を聞いて少し自信がついた。いろいろやってみたい。
- ・ 資料を再度見ながら日常に当てはめて子ども達と接していきたいと思った。
- ・ やはり、「育児は育自」と再認識した。
- ・ 字が書けるようになど知能的なことばかり気にして、安全面・生活面の事など考えていなかったのがよかった。



童謡フェスティバル



甲州市民文化会館において、甲州市生涯学習課市民協議会、甲州市公民館館長主事会及び甲州市教育委員会が主催、NPO法人すてっぷ・あっぷる共催による甲州市童謡フェスティバルが開催されました。日頃から童謡・唱歌に親しむことを通して、明るく心豊かな「ひとづくり・ふるさとづくり」の推進に役立て、子どもたちの豊かな感性や情操を育成すること、公民館活動の活性化と地域の方々とのふれあいや親睦の推進を図ることが目的となり、実施されています。午前の部は「心ぼかぼかファミリーコンサート」、午後の部は甲州市民による「童謡フェスティバル」とゲストによる「童謡コンサート」が企画され、音楽一色の一日でした。

午前の部は、名前のとおり、会場にフロアマットを敷いたりベビーカーでの入場も可能にしたりと、小さな子ども連れにもやさしい雰囲気の中で行われました。演奏曲は童謡や唱歌、ディズニーの曲、スメタナ作曲のピアノ三重奏といった本格的なクラシックもあり、とても楽しい時間でした。お子さんを抱っこしながら歌を口ずさむお母さんや曲に合わせて、手拍子したり踊ったりする幼児の姿もありました。

午後の部では、市内の公民館等から15の団体が参加し、日頃練習してきた童謡や唱歌を発表しました。また、「合田道人・伊藤咲子さん」の歌謡コンサートでは、童謡に隠された意味やその曲の誕生エピソードを紹介しながら花かげ、七つの子などの曲が披露されました。約800人が訪れ、舞台には、市内の児童クラブのみなさんが作ったひまわりの花が彩りを添えていました。



いちばん大切な あなたの生命 地域教育講演会

1月22日、山梨市の牧丘第二小学校で、学校・PTA・中牧公民館共催による地域教育講演会が行われ、「生命は、かけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する態度を養う」という、道徳の目標に沿った内容で、山梨県立大学人間福祉学部非常勤講師の新藤京子先生に講話をしていただきました。

胎児モデルや赤ちゃん人形で、生まれて育ってきた道を一年生にもわかるように話して下さいました。児童たちは、命についての話や作文の朗読、生後間もない赤ちゃんとのふれあいを通して、命の大切さや子育ての難しさを体感することができました。次世代を担う子どもたちがいきいきと豊かな心を育ててほしいと思いました。

感想

この講演を聞いて、私は命の大切さを今まで以上に知ることができました。特に、お母さんにうんでもらったのではなく、自分が自分で生まれてきたということは、自分がかくじけそうになった時に思い出してみようと思います。人間は自分が思っているよりずっと力があるんだなと思いました。 (5年女子・一部抜粋)

いのちの一つ。とても大切なもの。自分のいのちも他のいのちも傷つけてはならない。日々の子育てや生活の中で忘れていた、子どもが生まれた時の気持ちを思い出すことが出来ました。生まれてきてくれただけで、わが子が愛おしく、誇らしく思うことが出来ました。この講演を聞くことができ、心あたたくなくなり、子どもへの接し方が変わるような気がします。 (保護者・一部抜粋)



人は10才で「人間」となるのです

県立大学 坂本玲子先生

山梨小学校の5年生の親子を対象に、山梨市思春期事業の一環として、『すてきな「おとな」になるために』というテーマで山梨県立大学の坂本玲子先生から、お話をいただきました。

「人は10才で人間となるんです。みんなは何才？10才・11才？じゃあ、人間だね」と、テンポよく話し始めた坂本先生。「坂本的に言うと、10才前は天使、羽がついた天使だね・・・」あっという間に坂本ワールドに引き込まれてしまいました。

人は10才になると、ほぼ大人と同じ精神年齢に達し、人間としての基本的な性格が決まります。一般の大人も精神年齢上では10才児と同じで、違いは、現在の年齢に達するまでに培った経験や知識がプラスされていることです。ですから、感情的になったときには、大人でも10才の精神年齢が顔を出すことがあるそうです。

近年、親が子どもに介入することが多く、子どもはいつまでたっても自立せず、何かあれば親や周りのせいにし、自分で解決する術を身につけないまま大人になってしまう傾向があります。10才で子育て終了宣言が出来るように、自立への道をそれまでに歩んでいくこと（経験すること）が大切です。

自分の短所は長所にもなります。短所としての言葉で言われ続けるのと、長所の意味で言われ続ける言葉では受け止め方が違います。子どもを勇気づける言葉かけの子育てをしていきましょう。

10才、2分の1成人式をすませた児童たちと隣に座る保護者の胸に「だから、今、この瞬間を大切に・・・」という坂本先生の言葉が響きました。

※ 峡地連では、6月30日(木)に坂本玲子先生による「子育て講演会」を予定しています。



地域教育推進事業を振り返って

- ① 峡東地域教育推進連絡協議会の運営
 - ② 地域の子育ての支援の推進、子育て講演会の開催
 - ③ 家庭教育推進
 - ④ 保幼、小、中、高、特支、大学の連携推進
 - ⑤ 成人教育の推進（ことぶき勸学院等）
 - ⑥ 青少年教育の推進（やまなし少年海洋道中等）・新しい学校づくり人づくり
 - ⑦ 生涯スポーツの振興・学校体育への支援
 - ⑧ 地域教育情報誌「エリアウェッブ」の発行
- * 国・県の委託として（学校支援地域本部事業）

これらの業務のうち主なものをあげながら、1年間を振り返ってみたいと思います。

◆ 峡東地域教育推進連絡協議会の開催

この協議会は、山梨市・笛吹市・甲州市の教育機関や行政機関、地域住民等の連携や構成団体相互の支援強化を図り、「望ましい教育環境・社会環境づくり」を推進することを目的としています。年1回の総会と実務者会を開くとともに、子育て講演会や保・幼・小・中連携講演会、人権のための講演会、挨拶運動、生活習慣育成の取り組み等を行いました。

6月に「峡東地域連携活動紹介誌」を作成し、管内の学校や幼稚園・保育所（園）児童センター、関係機関に配布しました。

◆ 子育て講演会、連携講演会の開催

子育て講演会

7月1日（木）山梨市民会館

「子育ては 親育てから」

～甲斐の国の人々の生き方を伝えよう～

講師 小林 是綱氏（岩手県立図書館総括責任者）

参加者 127名

保幼・小・中連携の講演会

8月20日（木）甲州市民文化会館

「関係を生かした連携を求めて」

講師 文珠 紀久野先生（県立大学准教授）

参加者 91名

人権のための講演会

11月18日（木）いちのみや桃の里ふれあい文化館

「児童虐待、モンスターペアレントへの対応」講師

武藤 高晴氏（内田法律事務所）

参加者 109名

これらの講演録を作成し、配布しました。

◆ 地域住民による学校支援体制・放課後等の子どもたちの体験・交流活動の場づくりの推進

「やまなし学校応援団育成事業」は、甲州市・山梨市に学校支援地域本部が設置され、学校の要請に応じて学習活動支援・環境美化・登下校の安全指導・部活動支援などボランティアの方々が活動しています。

「放課後子どもプラン推進事業」は、笛吹市の富士見小と石和西小の放課後に、NPO法人学びの広場ふえふきが、ボランティアとして学習活動支援や様々な体験教室などの活動をしています。

11月には「峡東地区ボランティア研修会」をスコレーセンターで実施しました。約100名の参加は、山梨大学の谷口明子先生から「今ドキの子どもたち」という題で講演していただきました。

◆ 地域の子育て支援推進

今年度から「子育て支援リーダー養成講座」が新規事業となりました。年間7回の研修では、子育て支援に関わる課題について臨症的に解決し、ワークショップ形式を用いた研修を行いました。子育て支援リーダーとして、地域ぐるみの子育てを実現できるよう、力を発揮してほしいと思います。また、来年度も参加者を募集します。

◆ ことぶき勸学院

「学びたい」という意欲をもった60歳以上のの方々が、東八代・東山梨学園の2つの学園に集まり、身近な問題から現代的な課題、歴史、芸術など多様な内容を学びます。

その他に、勸学院祭、小中高校生との交流や家庭科支援、研修旅行などがあります。

◆ 地域教育情報誌「エリアウェッブ」の発行

年間で9回発行し、管内の保幼・小・中・高・特・大、教育関係機関、県庁関係課等へ配布しました。今年度は思うように取材に行くことが出来ず、地域や取り上げた機関に偏りが出てしまったことをお詫び申し上げます。今後も情報誌を発行していきますので、子育て支援の様子や各学校の活動の様子、地域での取り組みなど多方面からの情報をお寄せ頂ければ幸いです。

1年間、ご愛読いただき
ありがとうございました。

